



せなみっこ

第2号
令和4年4月27日
村上市立
瀬波小学校



瀬波小HP

自律する子の育て方

校長 若月 隆雄

新年度がスタートして1か月が過ぎました。せなみっこの素晴らしい姿をたくさん見ることができました。礼儀正しく、何事にも真面目に取り組む6年生，高学年の仲間入りをして，委員会活動で活躍している5年生，落ち着いて集中して学習している4年生，2クラスが1クラスになり，新たな環境で友達と仲良く活動している3年生，1年生を迎え，お兄さん，お姉さんになって1年生に優しく接している2年生，少しずつ学校生活に慣れ，元気にあいさつをしてくれる1年生……。せなみっこ235名，一人一人のこれからの活躍が楽しみです。

さて，科学技術の進歩は私たちの想像を超えるスピードで起きています。それに伴い経済構造や社会構造も大きく変化しはじめ，かつて常識だったことに囚われすぎると時代とうまく噛み合わなくなることが，社会のあらゆる場面に出てきています。このような激動の時代において最優先されるべき個人の資質は，自分で考え，判断し，行動することではないでしょうか。「どうやったら地球環境を守れるか」「どうやったら飢餓をなくせるか」「どうやったら紛争をなくせるか」これからは，グローバルな視点で考えていくことが求められます。まず，多様な考え方や特性を認め，他者を「尊重」することが大切になります。

学習指導要領には，子どもたちを自律した人間に育てるための手段として，「知育」「徳育」「体育」をバランスよく習得させることだと書いてあります。瀬波小学校のグランドデザイン（裏面）も「確かな学力」「豊かな心」「すこやかな体」の3つの目標を設定しています。

工藤勇一氏（元麴町中学校長）は，安心できる環境をつくることと，ストレスに強い脳をつくることのできる，魔法の言葉として以下の言葉を推奨しています。

【子どもに自己決定を促す「3つの言葉」】

- 1 「どうしたの？」（「何か困ったことはあるの？」）
- 2 「あなたはどうしたいの？」（「これからどうしようと考えているの？」）
- 3 「何を支援してほしいの？」（「私に何かできることはある？」）

常に子どもに自己決定の機会を与えていくと自己肯定感が高まり，自ずと自信と主体性が付くと言われています。「子どもを頭ごなしに叱らない」「子どもに決めさせる」この2本柱が同時にあることで「失敗しても大丈夫。やり直せばいいんだ。いろいろなことにチャレンジできるんだ。」という安心感が生まれます。

学校や家庭が子どもたちにとって，心理的安全な環境になるように，学校と家庭が連携・協働して取り組んでいきましょう。もうすぐゴールデンウィークが始まります。新型コロナウイルス感染拡大も続いています。事故のない，楽しいGWをお過ごしください。

※参考・引用文献「自律する子の育て方」著：工藤勇一・青砥瑞人